

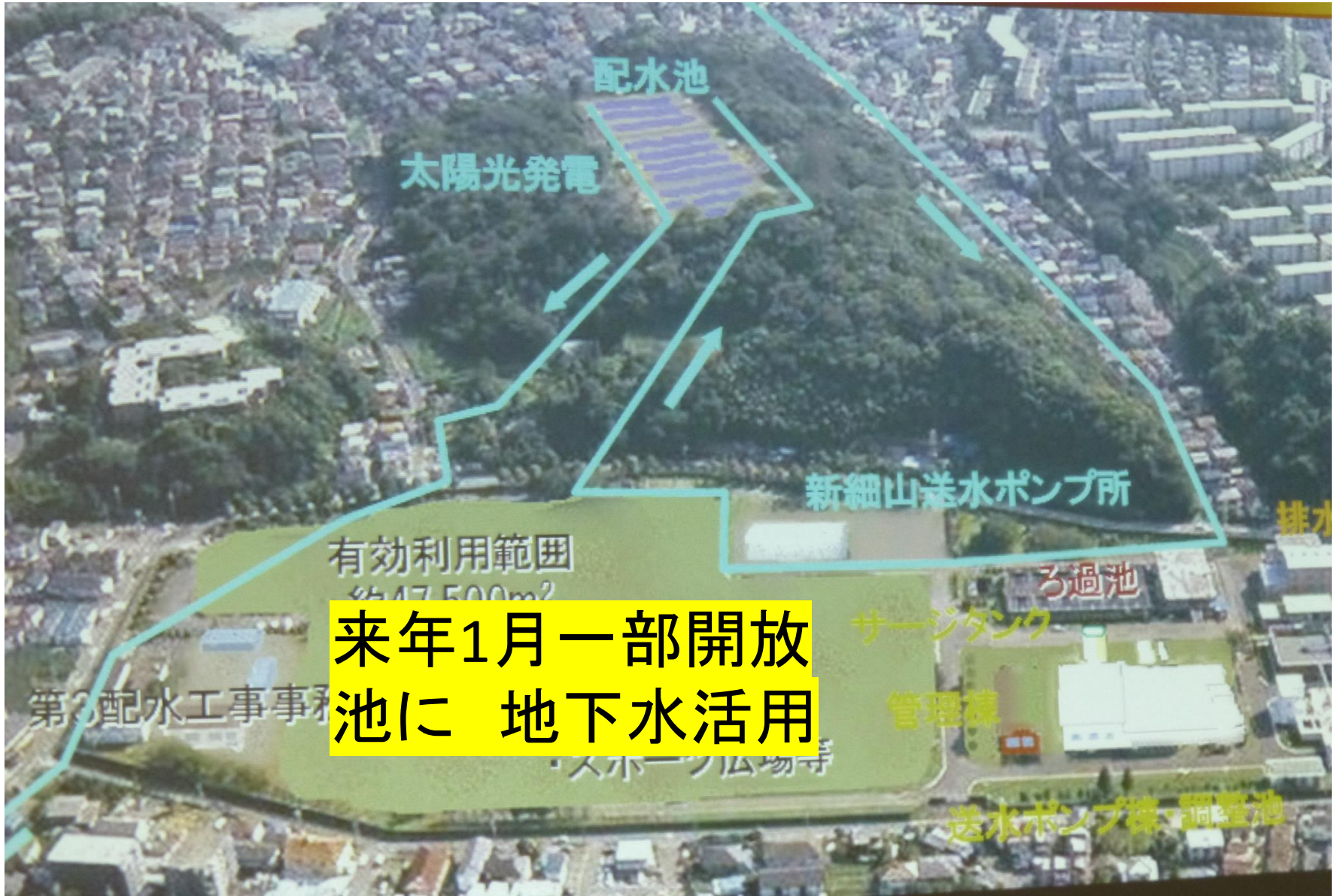
水は人権 命の水を守ろう

生田浄水場の復活を！企業団栄えて自治滅ぶ水道行政の見直しを！

かわさきの**安全でおいしい**水道水を守る会

23年4月30日 かながわ市民オンブズマン総会

有効活用される用地 浄水場用地は残存



なぜ生田浄水場を廃止するのか

- 1960年代、工場からの水増量要求
- 28万トン)・・・水道水でいいから欲しい。
- 厚生省の広域水道化の要請で神奈川県は1969年横浜市、川崎市、横須賀市と共同して神奈川県内広域水道企業団を作った。
- 川崎市は酒匂川の水を一日50万トン契約。企業団からの受水費用は年に81億円(20年度)現在は工場は4万トンのみ

神奈川県内広域水道企業団とは

- 企業団……複数の自治体が出し合って**事務**（焼却場、水道など）を実施する「一部事務組合」
- 厚生省の広域水道化の要請で神奈川県は横浜市、川崎市、横須賀市と共同して1969年**神奈川県内広域水道企業団**を作った。（4団体）
- 浄水事業、市町村への浄水の卸売り事業

生田浄水場 以前は1日10万トン飲み水供給
今は工業用水専用浄水場

長沢浄水場
隣に東京都の長沢浄水場



西長沢浄水場
ろ過池の流出堰倒壊。耐震化まだ

飯泉取水堰から活断層通過して送水、東日本大震災の地震の影響で管が破損20日間川崎への送水ストップ

生田浄水場の水は地下水で安全 で美味しい

- 夏冷たく 冬温かい **水温15度**
企業団の水は、大腸菌が250個/m l
(生田の水はゼロ)、
濁度は6.8
(生田の水は0.01)

小田原飯泉取水堰



透明な生田浄水場のろ過池



かわさきの安全でおいしい水道水 を守る会発足 2009年5月31日

- 生田浄水場の廃止の再検討を求める
署名スタート集会

(第1回市との話し合い)

命の水を守るために、生田浄水場の廃止の
再検討を求める請願

パネラー 川崎市水道局計画課長と

川崎市環境影響評価審議会委員 町井弘明氏

東日本大震災の余震で企業団の導水管 破損20日間一滴も川崎に水が送れず



2022年新たな生田浄水場復活運動

- **生田浄水場復活**のための企業団への
の請願署名運動**発足**講演会
- **10月29日(土)** 午後2時から4時

中野島会館にて 講師 保屋野初子氏

**「水道が本当につぶれかかっている！
住民を貧しくしない足元のしっかり
した水道にするのは誰か？」**

署名は1月12日提出予定

今回の請願の意義

- 現状11ある浄水場を8に減らす。この計画はすでに閉鎖した生田浄水場や、潮見台（川崎）、鶴ヶ峰（横浜）、逸見（横須賀）に加え、さらに寒川（県）、小雀（横浜）の各浄水場も廃止する計画。
- 神奈川県内広域水道企業団の水道システムは大変脆弱で更新に多額の財政負担を伴うもので、今後市民に水道料金の大幅な値上げが押しつけられる

企業団(川崎市も含む)の将来構想



●横浜西谷浄水場更新費用1000億円

●西長沢浄水場は西谷浄水場の1.5倍の規模

●西長沢浄水場は稼働しながら更新、膜ろ過を検討中、更新は新設よりも高額

●企業団は最下流から巨大ポンプで送水
莫大な電力消費で9万トン二酸化炭素排出

●生田浄水場など既存浄水場を更新したほうが安価、2019年生田浄水場更新費用試算では114億円

請願署名 1807名 不採択 しかし大きな成果

成果その1:企業団の再構築計画ストップ！
(予算ゼロ)

成果その2:非公開の会議録全面公開で新
事実が判明、今後の浄水場復活への大きな
動機に！ 横浜市議会でも小雀浄水場廃止
問題が議論、県全体の問題に

都合の良いデータで更新を正当化

5事業者水道事業連携推進会議の会議録は非公開の資料ですが、**川崎市上下水道局への情報公開**で入手令和3年1月会議の「水道システム再構築による効果」に削減効果824億円の根拠が記されており確認したところ、効果の数字には廃止する3浄水場の解体費用や新たに必要な管路の整備、西長沢浄水場の更新費用等が含まれていない。

西長沢浄水場更新を無視している

「企業団西長沢浄水場の更新工事は、稼働しながら施工するため困難かつ高額になります。」という請願趣旨について議論がなく、削減効果額だけを示し、「生田浄水場の再整備など、構成団体の既存施設を更新した方が安価になり、災害時の水確保ができる。」という私たちの主張については取り上げず、表面的な議論に終始

動力費予算は昨年度より約42億6400万円増（電気代高騰、6500kwでポンプアップ）。

各5事業者の中には不安の声が！ 不協和音！

令和3年3月の会議では

●企業庁発言：、「8浄水場にダウンサイジングすることまでは決まっている…。そうすると、県内の8浄水場の余力が当然少なくなるということである。そうすると、事故時の対応や工事の時期が重複した時の調整など、調整が困難な状況になる」

●企業長：構成団体の首長が自らの施設を廃止し、企業団の施設を活用するため増強すると言えばよいのであって、合意形成は基本的には各首長で良いのではないか（強引な運営？）

横浜市は小雀浄水場廃止すると困る

令和4年11月

横浜市水道局長:、上流取水の優先的利用の中には工水も含めて考えていただきたいと思っている

寒川地点からの取水がなくなると、工水はどうしても単独でやるのが難しくなるため、5事業者の水道システムの再構築に引きずられることになるので、どのような形で整理していけば良いのか分からないが、是非、5事業者の中で工水の存在というものを意識して検討していただければと思っている。

企業団の役割を逸脱した議論に待った！

- **令和5年2月議会**：井口議員：用水供給という特定の目的のみの権限のみをもっている一部事務組合が、構成団体の権限である地方自治体の計画に介入するのは問題だ

会議録を見れば、「8浄水場の所有をどうするか」ということまで議論されているではありませんか。「企業団がその役割を担う」ということまで言われています。企業団はあくまでも構成団体が作った用水供給事業者です。その役割に徹し、一体化の議論はやめるべきだ。

- **回答** 現在は各団体の所有はいじらずに、そのうえで進めていこうということでもとまっています

企業団議員(11名)は一人年間で97万2千円、議長117万6千円、副議長108万円の報酬を得ていて高すぎるので、議会の開催実態にみあった日額制とすること。

(月額8万1千円、日額17万円)

大阪広域水道企業団は日額制で日額1万3千円)岩手の企業団は月額3万2千円

報酬二重取りではないか

議員報酬について監査請求できないか

お手盛りの議員報酬、会議回数を水増しか？

- 合計5名（4構成団体から1名ずつと議長）からなる非公開の議員運営委員会で妥当だと否決

同じ日に開かれた常任委員会も別の日に見せかけたりして年間24日と説明。議会閉会中における日常的な議員活動も多いと言いつつ。

		本会議	常任委員会	合計
	1月29日	15分	2時間	2時間15分
	2月5日	10分	17分	27分
令和3年	7月14日	1時間55分	25分	2時間20分
	11月8日	12分	36分	48分
	11月15日	6分	4分	10分

企業団再構築計画の問題点

- 企業団栄えて自治滅ぶ
- 各自治体が自己水源を守る
- 危機管理上小規模分散で
- 企業団更新は県民の大幅水道料金値上げに
- 酒匂川最下流から莫大な電力消費で送水するシステムの脆弱性

5月16日(火) 学習・交流会
(川崎市上下水道局出前講座)

午後1時半から 多摩市民館第1会議室
「川崎市の水道の今！耐震化、応急給水
は？(中期計画の説明)

災害時の水確保は大丈夫か
生田浄水場の現状と今後は？